

## 組み立てて遊ぶ玩具の提案

a2200717 曾根川玲美

### 目的

おもちゃを作りたいと考えいろいろ調べてみたところ知育玩具に興味があった。そのなかでもパズルや積木などの組み立てて遊ぶものに特に興味があった。現代では親も幼少期から子供に対する教育に力を入れているため、多くの知育玩具も必要とされているのではないかと思った。

さらに知育玩具について調べてみたところ工夫がされている組み立てて遊ぶものは大人が手にしても楽しめそうなものが多く、子供だけではない幅広い需要があるのではないかと思った。そこで、そのような対象は子供だけが幅広い需要をもった組み立てて遊ぶ玩具を提案することを目的とする。

### 方法並びに経過

#### 市場調査

- 木製、安全な塗料を使う、小さな部品を使わないなどの配慮がされている。
- 組み立てて遊ぶものにもいくつか種類がある。
- 色彩への配慮。子供が一番好きな色は‘赤’。

ちなみに知育玩具とは明確な定義はなく教材が知識を身につけるものだけということに対して知能全般の発達を促すものである。

#### 幼児の遊びについての調査

##### 造形・構成遊びの役割

- 知能の発達：手は第2の脳だといわれる。
- 美意識を育てる：真・善・美と言われるが最も早く芽生えるのは美の意識である。
- 自我を育てる：表現活動は必ず自己表現や自己主張が出てくる。このことが個性の形成につながっていく。
- 技術の基礎を養う：技術的な態度の基を作る。
- コミュニケーション：集団で行われることも多いため子供どうしのコミュニケーションが行われ社会性の育成に役立つ。
- 認識能力を強化する：形を認識する力を高める。
- 創意工夫の意欲を強化する：新しい方法や手段を考え出せる。

おもちゃの中でも手を使い組み立てて遊ぶものは幼児や児童の大半が夢中になることから幅広く受け入れられている

#### 年齢別の遊びとおもちゃ



0歳 ————— 2歳



3歳 ————— 5歳

- 0歳では大人とのかかわりを持つ遊びやひっぱりおもちゃ、音のでるおもちゃなどがある。
- 1歳になるとごっこ遊びやみたくて遊びもするようになる。口に入れたがるので注意が必要。
- 2歳になると手先を使う遊びもするようになる。指を挟みそうなものやとがっているものにも注意が必要。
- 3～5歳ではそれらに加え仲間と協力して大きな作品を作ったりできるようになる。いろいろなことを覚えたり、ルールのある遊びもできるようになる。大きいものも運んだりするので重さなどにも注意が必要。

#### 試作

紙で試作し提案。

#### 制作

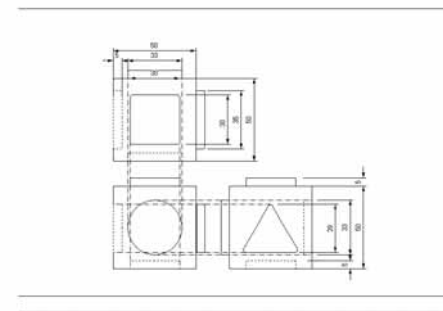
凹凸の部分の寸法と形を変えて木で制作。



#### デザインコンセプト

- 積み木の要素だけでなくはめ絵的な要素があり認識力がつく。また積んだものが崩れにくい。
- 、□、△は基本的な形。形を覚えるのにも役立つ。
- 色々な形が作れ創意工夫ができる。個性の形成につながる。
- たくさんあれば大きなものが作れる。協力もできる。

#### 図面



#### 考察

このテーマで調査し制作するに当たって多くのおもちゃを知ることができた。特に実際にいくつかのおもちゃにさわれたことは大きかった。調査の中でいろいろなおもちゃと出会い、手に持って遊ぶものや動くものにも多くの種類があり興味を引かれたものもあった。組み立てて遊ぶものと限定せず考えても面白かったかもしれない。また玩具の中でも知育玩具と呼ばれるものは、小さな子供だけでなく障害を持つ児童の教材として使われたりシルバーToyと言われるお年寄りのためのものもありそれぞれ目的があることがわかった。